

平成24年度 一般会計当初予算説明資料

8 款 土木費  
 4 項 港湾費  
 3 目 境港管理組合費

空港港湾課(内線7405)  
 (単位:千円)

事業名	本年度	前年度	比較	財 源 内 訳				備 考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
境港管理組合負担金	1,879,989	2,064,996	△185,007			(還付金) 42,267	1,837,722	
トータルコスト	1,887,230千円(前年度2,072,185千円) [正職員:0.9人]							
主な業務内容	事業計画の承認、事業報告の確認、負担金通知、収入・支払事務、境港管理組合規約等の対応業務、境港管理組合との調整							
工程表の政策目標(指標)	リサイクルポートの推進(平成24年目標:取扱貨物量60千トン) クルーズ客船の誘致(平成24年目標:16回寄港)							

事業内容の説明

1 事業の目的・概要

境港管理組合の運営及び境港の区域内の鳥取県に属する港湾施設整備に要する経費に対する負担金である。平成24年度においては、境港が日本海側拠点港として役割を果たすために必要な施策を取りまとめた「日本海側拠点港の形成に向けた計画」における、以下の個別プロジェクトを計画的に進める。

2 主な事業内容

【国際海上コンテナ関係】

- (1)コンテナターミナル拡張事業(事業費166,000千円:H24においては0千円、後年度に起債償還費を負担)  
コンテナ貨物の増加により、H25にはコンテナターミナルが不足するため、外港昭和南地区国際コンテナターミナルを、既存ターミナルの東側に隣接し現在未利用となっているふ頭用地側へ拡張する。併せて、増加するリーファーコンテナのための電源設備を増設する。
- (2)くん蒸倉庫改修事業<起債事業>(事業費56,000千円:H24においては0千円、後年度に起債償還費を負担)  
今後の花卉・青果物の輸入増に対応し、所要時間やコスト縮減を図るため、くん蒸倉庫の処理能力を向上させるため、40フィート型に対応する倉庫改修を行う。

【フェリー・RORO船関係】

- (1)国際フェリー・国際RORO船トライアル事業(事業費9,500千円 うち県負担金**9,500千円**)  
環日本海物流を促進するため、既存航路および新規航路のベースとなる可能性がある貨物のトライアル輸送を実施し、トライアル輸送を通して、新たな貨物の誘致につながるよう検討を行う。
- (2)国内フェリー・国内RORO船就航トライアル事業(事業費7,500千円 うち県負担金**5,625千円**)  
H23年度調査事業の調査結果を踏まえてトライアル事業を実施する。

【原木関係】

- (1)原木木皮マルチング材利用検討事業(事業費3,000千円 うち県負担金**3,000千円**)  
現在、ふ頭に野積みされている木皮の再利用と野積場の効率的な利用(多様な貨物での利用)の促進を図るため、木皮を植栽のマルチング材(草押さえ)として活用するための検討を行う。

【外航クルーズ関係】

- (1)クルーズ船境港寄港記念シンポジウム開催事業(事業費5,000千円 うち県負担金**2,500千円**)  
港湾関係者、観光関係、商工会・企業関係、一般住民等を対象にシンポジウムを開催し、クルーズの魅力や観光資源の活用について理解を深め、今後の境港振興の契機とする。
- (2)大型クルーズ船就航歓迎イベント実施事業(事業費2,000千円 うち県負担金**1,500千円**)  
入港時歓迎式典、歓迎夕食会、出港セレモニー等の開催や地域の方々も参加する船内見学や周遊クルーズ等を実施する。
- (3)クルーズ船集客支援事業(事業費12,000千円 うち県負担金**6,000千円**)  
クルーズ船社等が行う境港周辺の魅力をPRするパンフレット等の広報費用の一部を支援する。

【リサイクル関係】

- (1)リサイクル製品のトライアル輸送(事業費9,000千円 うち県負担金**9,000千円**)  
平成23年度からリサイクル貨物のトライアル輸送を行っており、今後も同様にトライアル輸送により品目ごとの物流の問題点を洗い出し、本格輸送へつなげ境港のリサイクル貨物の取り扱いの増加を図っていく。

その他の事業(1,842,864千円)

境港管理組合の運営等に要する経費である。

3 これまでの取組状況・改善点

境港が平成22年8月に「新規の直轄港湾整備事業の着手対象となる港湾」(いわゆる重点港湾)に選定され、平成23年1月に総合静脈物流拠点港(リサイクルポート)に指定された。

また境港が中国・韓国・ロシアなど対岸諸国のゲートウェイを目指し、重点的な港湾施設整備等の支援が得られるよう、「日本海側拠点港」の指定を受けたところ。今後、外航クルーズの積極的な誘致など、拠点港としての機能のさらなる向上を図る。